

第 117 回 東葛しぜん観察会

オニヤンマと谷津の自然

塚原晃子（船橋市）

日 時：2015 年 9 月 13 日（日）10：00～12：30 天気：曇り

場 所：市川市大町自然観察園（市川市）

参加者：大人 6 人、子ども 3 人、指導員 21 人

担当指導員：米澤理雄、上野義介、塚原晃子

数日前の記録的豪雨の影響でここ市川市大町でも一部浸水などの報道があり、谷津一带はどうだろうと多少不安がありました。少しぬかるんでいるところがあったものの観察会は支障なく進めることができました。

大町自然観察園は長田(ながた)谷津とも呼ばれ、昭和 40 年代までは細長く伸びた水田でしたが、やがて休耕田となり地元の意向や研究者の提言により保全されることになりました。この地は梨の特産地、緑に覆われた梨畑、そこに雨水がしみ込んで地下に蓄えられ湧水となって長田谷津の豊かな自然を支えています。野生のヘイケボタルが生息し、夏にはホテル観賞会が行われています。

大人班と子ども班に分かれ出発、私は子ども班に付きました。オカメザサの葉で笹舟を作り、さっそく湧水のところで流してみました。いつもより水かさが多く“流れた！”と歓声、湧水の底の砂の中にヤゴを見つける。“冷たい”。ぴょんと何かはねた。とがったバッタ、オンブバッタ？ ショウリョウバッタ？「虫眼鏡で見てごらん。目のところに点が 2 つあるとオンブバッタだよ」「ある！ オンブバッタだ。」ヌスビトハギの実を服にくっつけると“ボクも”“わたしも”「ひつつきむしだよ、こうやって種を運んでもらうんだよ」、面白い形のツリフネソウにオオスカシバが飛び交っている。お花を 1 つ頂いて解体、「長くちばしでこの中の蜜を吸うんだよ。」「オオカマキリがいるよ」と大人班からの知らせ。お腹の大きなカマキリ“でかい！”その大きさにびっくりした様子。青い色がきれいなツククサ「ほら、ミッキーマウスみたいでしょ。雄しべや雌しべも面白いよ」と虫眼鏡を覗かせる。白い布に花びらをこすると青く染まった。“わあーきれい”。“オニヤンマだ！ シオカラトンボも！”子どもはほんとうに目敏い。エゴノキの実で泡を立てる実験をした。「昔はこれで洗濯したんだって」ペットボトルを振りながら子どもたちは大喜び、狭い観察路を飛び跳ねるのでヒヤヒヤ、虫えいのネコアシのことはほとんど耳に入らなかったようです。

子ども達には自然の中で過ごす楽しさを体得してもらえたのではないかと思います。子どもが興味を持ったことを子どもの目線でいっしょに楽しむことの大切さをつくづく感じました。

大人の方からは「今まで何気なく見ていた植物や昆虫たちの生態を知り、これからは違う視点で散策を楽しむことができる。子どもも親から離れてのびのび楽しそうだった」と感想を頂きました。反省会で、この場所は昨年(雨天中止)も今年も申込者が少ないことが話題になり、こんなに素晴らしい場所なのだからもっと認知度を上げる努力をしなければならぬとの結論になりました。



オオカマキリを虫メガネで観察